

令和7年度
学校推薦型選抜入学試験

基礎学力試験問題
(小論文)

1. 試験時間は、60分です。
2. 問題は、この冊子の1～6ページにあります。問題用紙が解答用紙を兼ねています。
3. 問題や解答を、声に出して読んではいけません。
4. 印刷の不鮮明、用紙の過不足については、申し出てください。
5. 問題や解答についての質問は、原則として受け付けません。
6. 終了の合図があったら、すぐに筆記具を置いて、解答用紙を机の上に伏せてください。
7. この問題用紙は、持ち帰らないでください。
8. 不正な行為があった場合には、解答をすべて無効とします。
9. 答案の文字は、ていねいに、かつ明瞭正確に書いてください。
10. その他、試験の進行については、監督者の指示に従ってください。

植草学園大学 発達教育学部

受験番号		氏名	
------	--	----	--

ヤングケアラーとは、本来、大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子どものことを指す。ヤングケアラーは、年齢に見合わない重い責任や負担を抱えることで、本人の発達や教育に影響が出るといった問題があるため、国や自治体が対策に乗り出している。

子どもがヤングケアラーとなる要因は様々である。例えば、共働き世帯やひとり親世帯の増加により、大人が家庭にかけられる時間やエネルギーが減少する中で、家族内での支援を要する人がいた場合、子どもが世話をするという状況が生じうる。

令和3年度の厚生労働省および文部科学省の委託調査「ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書（株式会社日本総合研究所）」によると、小学6年生の回答総数9,759人のうち、家族の世話をしている小学6年生は631人であった。そのうち、父母を世話する小学生の16.2%が自分のみで世話をし、さらにその35.1%が自身の担っている世話について相談できる人がいないと回答していた。（ア）しているヤングケアラーの存在は、支援の緊急性が非常に高いと言える。

問題 次の問いに答えなさい。なお、問1～4の調査結果は、小学6年生のみのデータを用いている。

問1 冒頭文中の令和3年度「ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書（株式会社日本総合研究所）」では、家族の世話をしている小学6年生は何%だったか。なお、割り切れない場合は、四捨五入し、小数第1位までの値を算出せよ。

答え（ ）%

問2 冒頭文中の（ア）に当てはまる適切な語句を選択肢a～eから選べ。

a. 両立 b. 自立 c. 分立 d. 孤立 e. 対立

答え（ ）

問3 図1はヤングケアラーが担っている世話の内容を、表1は平日1日あたりの世話に費やす時間と現在の困りごとを示している。以下の選択肢a～eのうち、図1、表1から言えることを2つ選び、アルファベットにて回答せよ。

- a. 最も多い世話の内容は家事（食事の準備や掃除、洗濯）であり、次に見守りである。
- b. 入浴やトイレのお世話を担う者の人数は、200名ほどである。
- c. 買い物や散歩に一緒に行く者の割合は、話を聞く者の割合の約0.7倍である。
- d. 平日1日あたりの世話に費やす時間の長さにかかわらず、30%以上の者は特に困りごとがない。
- e. 平日1日あたりの世話に費やす時間の長さが短いほど、友達のこと困っている者の割合が高い。

答え（ ）（ ）

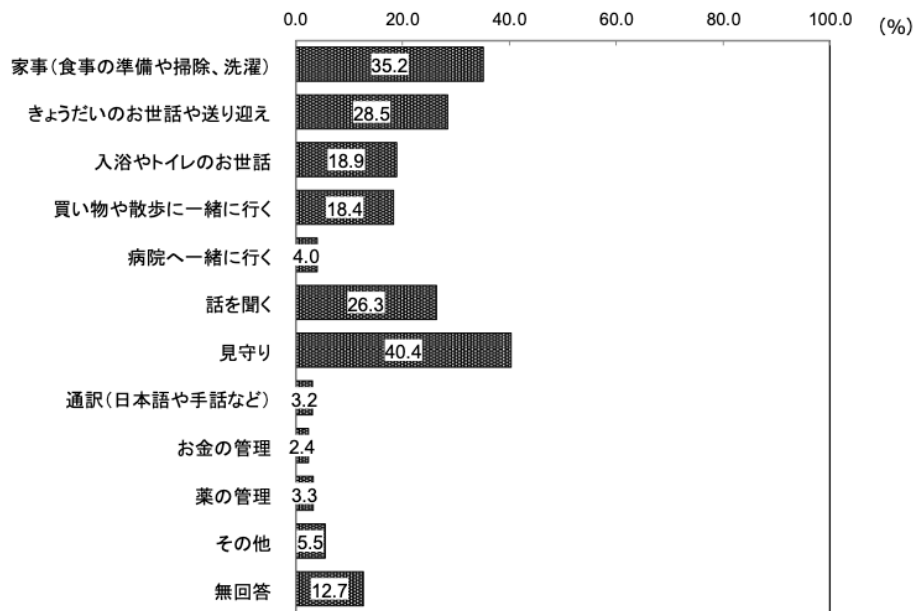


図1 世話の内容（複数回答） 回答者数：631名

表1 平日1日あたりの世話に費やす時間と現在の困りごと（複数回答）

現在の悩みごと 平日1日あたりの世話に 費やす時間	友 達 の こ と	学 校 の 成 績 の こ と	習 い 事 の こ と	家 族 の こ と	お 金 の こ と	生 活 や 勉 強 に 必 要 な	時 間 が 少 な い に 使 え る	自 分 の た め に	そ の 他	特 に な い
3時間未満（n=331）	14.5	21.8	8.5	12.1	10.0	8.8	5.4	52.9		
3～7時間未満（n=144）	25.7	20.1	10.4	20.1	14.6	9.7	4.2	47.2		
7時間以上（n=45）	22.2	31.1	17.8	17.8	22.2	20.0	11.1	35.6		

(%)

図1、表1の出典：令和3年度子ども・子育て推進調査研究事業「ヤングケアラーの実態に関する調査報告書」
令和4年3月（株式会社日本総合研究所）
＊出題の都合上、部分的に省略・改変してある。

問4 表2は、世話を必要としている人が「父母」である場合、「父母の状態像」についてヤングケアラーに回答を求めた結果である。この結果を基に、作成途中の図2のレーダーチャートを完成せよ。

表2 世話を必要とする人（父母）の状態像（複数回答） 回答者数：138名

世話を必要とする人（父母）の状態像	高齢（65歳以上）	要介護状態	認知症	身体障がい	知的障がい	精神疾患（疑い含む）	依存症（疑い含む）	精神疾患・依存症以外の病気	日本語を第一言語としない	わからない	その他	無回答
回答割合（％）	5.1	3.6	0.7	8.0	0.7	8.7	2.9	5.1	10.9	33.3	19.6	15.2

出典：令和3年度子ども・子育て推進調査研究事業「ヤングケアラーの実態に関する調査報告書」令和4年3月（株式会社日本総合研究所）
 ＊出題の都合上、部分的に省略・改変してある。

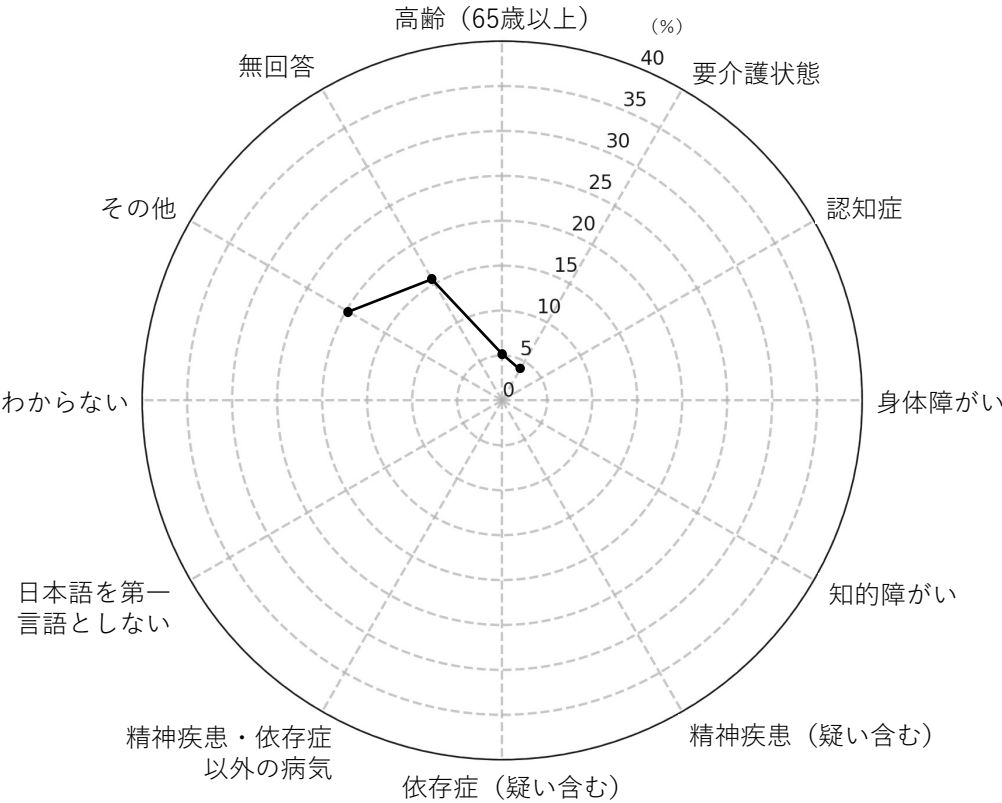


図2 レーダーチャート 「世話を必要とする家族（父母）の状態像」

問5 表3は、一般国民を対象として、ヤングケアラーについての認知度と、周囲にヤングケアラーがいた場合に想定される対応について問うた回答の結果を表す。この表から読み取れる内容について示した以下の文について、空欄部A～Cに当てはまる適切な語句を記入せよ。

ヤングケアラーについての認知度が高いほど、具体的な対応に結びつきやすく、認知度が（ A ）ほど、（ B ）、（ C ）という回答が多い。

答え A. () B. () C. ()

表3 ヤングケアラーについての認知度と周囲にヤングケアラーがいた場合の対応（複数回答）

周囲にヤングケアラーがいた場合の対応 ヤングケアラーについての認知度	関係機関に相談する	家族、知人、友人に相談	本人に様子を聞く	何もしない	わからない	その他
聞いたことがあり、内容も知っている（n=686）	39.9	25.9	40.4	8.9	21.7	0.1
聞いたことはあるが、よく知らない（n=528）	21.8	1.8	23.1	17.0	36.6	0.8
聞いたことはない（n=1,143）	11.5	10.9	13.2	20.2	52.3	0.6

(%)

注1：ヤングケアラーについての認知度は、「ヤングケアラーという言葉をご存知でしたか」という問いで回答を得ている。

注2：周囲にヤングケアラーがいた場合の対応は、「仮に身の回りにヤングケアラーと思われる子どもがいた場合、どのような対応をしますか」という問いで回答を得ている。

出典：令和3年度子ども・子育て推進調査研究事業「ヤングケアラーの実態に関する調査報告書」令和4年3月（株式会社日本総合研究所）

*出題の都合上、部分的に省略・改変してある。

問6 ここまで、小学6年生を対象としたヤングケアラーの現状、家族を世話することが子どもに与える影響、一般国民のヤングケアラーに対する認識等について示してきた。また、ヤングケアラーの中には、平日に1日7時間以上も家族の世話にかけていながら「相談するほどのことではない」という認識の子どもが約6割存在するなど、問題の根は深い。これらの問題を鑑みて、ヤングケアラーの心身の健やかな成長のためには、関係機関^{注1)}や団体^{注2)}などが連携し、ヤングケアラーの発見と支援につなげる取組みが求められるが、どのような取組みが考えられるだろうか。あなたの提案を理由とともに400字以内で述べて。なお、その取組みを「誰が」行うのかについても明記すること。

注1) 関係機関の例

教育機関：学校、教員、スクールカウンセラーなど

行政機関：国、地方自治体など

注2) 団体の例

町内会、NPO法人など

